

「安全安心・持続可能な埋立処分場を創る」へのコメント

氏名：香川智紀

所属：社団法人全国産業廃棄物連合会

(1) 最終処分場に対する規制の中長期的な見通しについて

当業界は、定められた法や基準に従い最終処分場を運営する立場にあります。最近では毎年のように規制が強化されています。廃棄物に限ったわけではありませんが、物はコストの安い場所や規制の緩い場所を探して流れていきます。現在ではコストが高く規制が厳しい我が国を嫌って、廃棄物が海外に出される事例が増加しています。(この場合は、リサイクル原料と言う場合が多くなっています。)

事業者としては適法で合理的かつ経済的に事業を運営することが重要です。したがって設備投資や技術開発の立案に当たっては、今後の規制の動向を見極めることが重要です。

しかし、現状のようにめまぐるしく変化する規制の将来動向を正確に把握することは非常に困難であるといえます。

そこで廃棄物処理について最先端の研究を行っておられる専門家の皆様が、廃棄物処理の仕組みや規制の方向性についてどのようなお考えをお持ちかをお伺いさせていただければと思います。

(2) 公共関与の信頼性を裏付ける具体的な事例について

田中先生の論文にもありますが、廃棄物処理のうち特に最終処分に関しては、民間ではなく公共関与を求める意見が多く聞かれます。

最近是我が国を代表する企業の不祥事も後を絶たず、企業市民としての意識は産業廃棄物処理業だけの問題ではありません。また、当業界に対する規制は他産業に比較しても大変厳しく、一度の誤ちが事業の停止につながります。産業廃棄物処理業を主たる事業として掲げている以上、遵法意識が劣っているとは考えておりません。

当業界としては、公共関与が信用されるに至った事例について把握した上で、同等の信頼を得るための努力を惜しまない覚悟です。

そこで公共関与の方が信用があると判断されるに至った、具体的な事例についてご紹介いただくとともに、民間事業者が公共関与と同等の信頼を得るためにどのようなことが必要であるとお考えになっておられるかをお聞かせいただければと思います。

以上